FP STUDY LAB
エフピースタディラボ

FP STUDY LAB｜CFP試験学習サイト（非公式）

CFP®資格審査試験 学習用　オリジナル問題

リスクと保険
問題集

50問

法令の基準日	2026年4月1日時点の制度（問題ごとに記載）
確認状況	全問 作成者による検算済み（有資格者のレビュー前・self-checked）
版	2026-11-17 版（元データ dff4bbd）

本書は日本FP協会の公式教材ではありません。非公式の学習サービス FP STUDY LAB が作成した、練習用のオリジナル問題集です。無料で配布しています。

はじめにお読みください

- 本書は、学習サービス「FP STUDY LAB」が作成した、CFP®資格審査試験の非公式の学習教材です。日本FP協会（NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会）およびFinancial Planning Standards Board Ltd.（FPSB）とは一切関係がなく、これらの団体が提供・監修・推奨するものではありません。
- 本書の問題はすべて本サイトのオリジナル問題です。CFP®資格審査試験の過去問題を転載したものではありません。
- 問題と解説は、各問題に記載した基準日時点の法令・制度に基づいて作成していますが、正確性を保証するものではありません。法改正により内容が変わることがあります。実際の受験や実務では、必ず最新の法令や公式の情報を確認してください。
- 全問の確認状況は「作成者による検算済み（有資格者のレビュー前・self-checked）」です。有資格者によるレビューは完了していません。
- 教材（問題・解説）の制作の補助と、根拠との照合にAIを利用しています。CFP®資格の保有者・専門家による監修は受けていません。
- 本書には解答を載せていません。正答と解説は、同じ課目の「解答・解説集」で確認してください。
- 問題・解説の内容は、FP STUDY LAB｜CFP試験学習サイト（非公式）の問題データ（Web版と同じもの）から作成しています。Web版で問題を修正した場合は、本書も作り直します。表紙の版の日付を確認してください。

CFP®、CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®、およびサーティファイド ファイナンシャル プランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd.(FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。

目次

第1問	risk-001	生命保険料控除	5
第2問	risk-002	地震保険	5
第3問	risk-003	自賠責保険	6
第4問	risk-004	死亡保険金と税金	6
第5問	risk-005	失火責任法	6
第6問	risk-006	死亡保険金の非課税金額	7
第7問	risk-007	保険契約のクーリング・オフ	7
第8問	risk-008	地震保険料控除	8
第9問	risk-009	個人年金保険料控除の対象となる契約	8
第10問	risk-010	入院給付金と税金	8
第11問	risk-011	満期保険金と贈与税	9
第12問	risk-012	保険法（告知義務違反による解除）	9
第13問	risk-013	保険法（他人を被保険者とする死亡保険契約）	10
第14問	risk-014	保険法（保険金受取人の変更）	10
第15問	risk-015	損害保険金と所得税	10
第16問	risk-016	少額短期保険	11
第17問	risk-017	保険法（保険給付請求権の時効）	11
第18問	risk-018	生命保険料控除（合計の上限）	12
第19問	risk-019	保険法（損害保険の免責）	12
第20問	risk-020	保険法（死亡保険の免責）	13
第21問	risk-021	自賠責保険（被害者請求）	13
第22問	risk-022	損害保険の一部保険（比例てん補）	14
第23問	risk-023	保険法（超過保険）	14
第24問	risk-024	保険法（重複保険）	14
第25問	risk-025	保険法（重大事由による解除）	15
第26問	risk-026	個人年金保険の年金と雑所得	15
第27問	risk-027	所得補償保険金と税金	15
第28問	risk-028	生命保険料控除（旧契約）	16
第29問	risk-029	保険法（保険給付の履行期）	16
第30問	risk-030	死亡保険金の非課税（相続人以外の受取人）	17
第31問	risk-031	保険法（保険契約者による解除）	17
第32問	risk-032	保険法（危険増加による解除）	18
第33問	risk-033	地震保険の保険金額の限度	18
第34問	risk-034	介護医療保険料控除（所得税）	19
第35問	risk-035	生命保険料控除（住民税）	19
第36問	risk-036	解約返戻金と一時所得	20

第37問 risk-037 保険法（責任保険の被害者の先取特権） 20
第38問 risk-038 保険業法（所属保険会社等の賠償責任） 20
第39問 risk-039 保険法（第三者のためにする生命保険契約） 21
第40問 risk-040 死亡保険金と贈与税 21
第41問 risk-041 保険法（保険金受取人の死亡） 21
第42問 risk-042 保険法（差押債権者等による解除と介入権） 22
第43問 risk-043 保険法（請求権代位） 22
第44問 risk-044 自賠法（責任保険の契約の締結強制） 22
第45問 risk-045 保険業法（意向把握義務） 23
第46問 risk-046 地震保険料控除（住民税） 23
第47問 risk-047 保険法（保険価額の減少） 23
第48問 risk-048 保険法の保険契約の分類（傷害疾病定額保険契約） 24
第49問 risk-049 傷害保険の死亡保険金と相続税 24
第50問 risk-050 保険法（片面的強行規定） 24

課目4　リスクと保険

問題（50問）

第1問　risk-001　保険・生命保険料控除・難易度 ★☆☆

会社員のBさんは、2026年中に、2012年1月1日以後に契約した一般の生命保険（死亡保障）の保険料を年間10万円支払った。Bさんの2026年分の所得税における生命保険料控除の額として、最も適切なものはどれか。

前提条件

- Bさんには、23歳未満の扶養親族はいないものとする。
- 上記以外に、生命保険料控除の対象となる保険料の支払いはないものとする。
- 契約者（保険料負担者）・被保険者はBさん、保険金受取人は配偶者とする。

A　28,000円

B　40,000円

C　45,000円

D　50,000円

解答欄（　　）

第2問　risk-002　保険・地震保険・難易度 ★☆☆

居住用建物を対象とする地震保険に関する記述として、最も適切なものはどれか。

A　地震保険の保険金額は、主契約である火災保険の保険金額の30%以上50%以下の範囲で設定する。

B　地震保険は、火災保険に付けずに単独で契約できる。

C　建物を対象とする地震保険の保険金額の上限は、1,000万円である。

D　地震保険の補償内容と保険料は、保険会社によって大きく異なる。

解答欄（　　）

第3問　risk-003　保険・自賠責保険・難易度 ★☆☆

自動車損害賠償責任保険（自賠責保険）の保険金額（被害者1人あたりの支払限度額）に関する記述として、最も適切なものはどれか。

(A) 死亡による損害の限度額は4,000万円である。

(B) 物の損害（対物）も、1事故あたり3,000万円まで補償される。

(C) 死亡による損害は3,000万円、傷害による損害は120万円が限度である。

(D) 対人賠償・対物賠償とも、保険金額に限度はない。

解答欄（　　）

第4問　risk-004　保険・死亡保険金と税金・難易度 ★★☆

妻が契約者（保険料負担者）、夫が被保険者、妻が死亡保険金受取人である生命保険契約で、夫の死亡により妻が死亡保険金を一時金で受け取った。この死亡保険金に課される税金として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 保険料はすべて妻が負担していたものとする。

(A) 相続税

(B) 所得税（一時所得）

(C) 贈与税

(D) 課税されない

解答欄（　　）

第5問　risk-005　保険・失火責任法・難易度 ★★☆

自宅で調理中にうっかり火を消し忘れたこと（軽過失）が原因で火災が起き、隣家に延焼した。隣家に対する損害賠償責任に関する記述として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 失火者と隣家の所有者との間に、契約関係はないものとする。
- 故意による放火ではないものとする。

(A) 失火者に重大な過失がなければ、民法第709条（不法行為）に基づく損害賠償責任を負わない。

(B) 過失の程度にかかわらず、民法第709条に基づく損害賠償責任を負う。

(C) 重大な過失があっても、失火の場合は損害賠償責任を負わない。

(D) 損害賠償責任を負うかどうかは、隣家が火災保険に加入しているかどうかで決まる。

解答欄（　　）

第6問　risk-006　保険・死亡保険金の非課税金額・難易度 ★★☆

2026年に亡くなったLさん（契約者・保険料負担者・被保険者）の死亡により、妻が生命保険の死亡保険金2,000万円を受け取った。Lさんの相続人は、妻と子2人の3人である。妻が受け取った死亡保険金のうち、相続税の課税価格に算入される金額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- ほかに死亡保険金を受け取った人はいないものとする。
- 相続の放棄をした人はいないものとする。

A　500万円

B　1,000万円

C　1,500万円

D　2,000万円

解答欄（　　）

第7問　risk-007　保険・保険契約のクーリング・オフ・難易度 ★☆☆

保険業法に基づく、保険契約の申込みの撤回等（クーリング・オフ）に関する記述として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 個人が、営業・事業のためではなく保険契約の申込みをするものとする。

A　保険期間が1年以下の保険契約でも、クーリング・オフをすることができる。

B　クーリング・オフは、保険会社に電話で申し出れば足りる。

C　クーリング・オフの事項を記載した書面を交付された日と、申込みをした日とのいずれか遅い日から起算して8日を経過するまでは、書面または電磁的記録によりクーリング・オフをすることができる。

D　法令により加入が義務付けられている自動車損害賠償責任保険も、クーリング・オフの対象である。

解答欄（　　）

第8問　risk-008　保険・地震保険料控除・難易度 ★☆☆

会社員のMさんは、2026年中に、自宅建物と家財を対象とする地震保険の保険料（地震等損害部分の保険料）を7万円支払った。Mさんの2026年分の所得税の地震保険料控除の額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 保険料の割戻金等はないものとする。
- 旧長期損害保険料の支払いはないものとする。

A　25,000円

B　35,000円

C　50,000円

D　70,000円

解答欄（　　）

第9問　risk-009　保険・個人年金保険料控除の対象となる契約・難易度 ★★☆

2012年1月1日以後に締結した個人年金保険契約の保険料が、所得税の生命保険料控除のうち個人年金保険料控除の対象となるための要件に関する記述として、最も適切なものはどれか。

A　年金の受取人は、保険料を払い込む者の子であってもよい。

B　保険料の払込みは、年金支払開始日前5年以上の期間にわたって定期に行うものであればよい。

C　確定年金の場合、年金の支払は、受取人が55歳に達した日以後に始まり、5年以上の期間にわたって定期に行うものであればよい。

D　年金の受取人が保険料を払い込む者またはその配偶者であり、保険料の払込みが年金支払開始日前10年以上の期間にわたって定期に行われるものであることが、要件に含まれる。

解答欄（　　）

第10問　risk-010　保険・入院給付金と税金・難易度 ★☆☆

会社員のNさんは、ケガで入院し、自分が契約者（保険料負担者）・被保険者・受取人である医療保険から、入院給付金30万円を受け取った。この入院給付金の所得税の取扱いとして、最も適切なものはどれか。

A　非課税である。

B　一時所得として課税される。

C　雑所得として課税される。

D　給与所得として課税される。

解答欄（　　）

第11問　risk-011　保険・満期保険金と贈与税・難易度 ★★☆

父が保険料を全額負担し、子が被保険者かつ満期保険金受取人である養老保険が2026年に満期となり、子（2026年1月1日時点で30歳）が満期保険金600万円を一時金で受け取った。子の2026年分の贈与税額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 暦年課税によるものとし、相続時精算課税は選択していないものとする。
- 2026年中に、ほかに贈与を受けた財産はないものとする。

A　490,000円

B　820,000円

C　680,000円

D　贈与税はかからない（一時所得として所得税の対象）

解答欄（　　）

第12問　risk-012　保険・保険法（告知義務違反による解除）・難易度 ★★☆

生命保険契約の告知義務違反による保険者の解除権に関する、保険法の規定についての記述として、最も適切なものはどれか。

A　保険者は、告知義務違反があれば、契約の締結からの期間にかかわらず、いつでも契約を解除できる。

B　保険者の解除権は、保険者が解除の原因があることを知った時から1か月間行使しないとき、または生命保険契約の締結の時から5年を経過したときに消滅する。

C　保険媒介者が保険契約者の告知を妨げた場合でも、保険者は常に告知義務違反を理由に契約を解除できる。

D　保険者の解除権は、生命保険契約の締結の時から2年を経過したときに消滅すると、保険法で定められている。

解答欄（　　）

第13問　risk-013　保険・保険法（他人を被保険者とする死亡保険契約）・難易度 ★☆☆

保険契約者以外の者を被保険者とする死亡保険契約に関する、保険法の規定についての記述として、最も適切なものはどれか。

A　被保険者の同意がなければ、その効力を生じない。

B　保険金受取人の同意があれば、被保険者の同意は不要である。

C　被保険者の同意が必要なのは、被保険者が未成年者である場合に限られる。

D　保険契約者と被保険者が親族であれば、被保険者の同意は不要である。

解答欄（　　）

第14問　risk-014　保険・保険法（保険金受取人の変更）・難易度 ★★☆

生命保険契約の保険金受取人の変更に関する、保険法の規定についての記述として、最も適切なものはどれか。

A　保険契約者は、保険事故が発生した後でも、保険金受取人を変更することができる。

B　保険金受取人の変更には、保険者の承諾が必要である。

C　保険金受取人の変更は、遺言によってすることはできない。

D　保険金受取人の変更は遺言によってもすることができ、遺言の効力が生じた後、保険契約者の相続人が保険者に通知しなければ、保険者に対抗することができない。

解答欄（　　）

第15問　risk-015　保険・損害保険金と所得税・難易度 ★★☆

個人が受け取る損害保険の保険金などの所得税の取扱いに関する記述として、最も適切なものはどれか。

A　自宅の建物が火災で焼失し、火災保険の保険金を受け取った場合、その保険金は非課税である。

B　積立型の損害保険の満期返戻金は、資産の損害に基因するものではないが、非課税である。

C　自宅の建物の火災で受け取った火災保険の保険金は、一時所得として課税される。

D　個人事業者が、店舗の商品（棚卸資産）の損害について受け取った保険金は、非課税である。

解答欄（　　）

第16問　risk-016　保険・少額短期保険・難易度 ★★☆

保険業法に定める少額短期保険業に関する記述として、最も適切なものはどれか。

A　少額短期保険業者は、保険期間が10年以内の保険を引き受けることができる。

B　少額短期保険業者が引き受ける保険の保険金額には、法令上の上限はない。

C　少額短期保険業は、保険期間が2年以内の政令で定める期間以内で、保険金額が1,000万円を超えない範囲内で政令で定める金額以下の保険のみの引受けを行う事業である。

D　少額短期保険業は、登録などの手続をしなくても、誰でも行うことができる。

解答欄（　　）

第17問　risk-017　保険・保険法（保険給付請求権の時効）・難易度 ★☆☆

保険法に定める、保険金（保険給付）を請求する権利の消滅時効の期間として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 約款で別段の定めをしていないものとする。

A　行使することができる時から1年間

B　行使することができる時から3年間

C　行使することができる時から5年間

D　行使することができる時から10年間

解答欄（　　）

第18問　risk-018　保険・生命保険料控除（合計の上限）・難易度 ★★☆

会社員のKさんは、2026年中に、いずれも2012年1月1日以後に締結した契約について、一般の生命保険料15万円、介護医療保険料10万円、個人年金保険料（個人年金保険料控除の要件を満たすもの）9万円を支払った。Kさんの2026年分の所得税の生命保険料控除の額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 2012年1月1日以前に締結した契約はないものとする。
- 剰余金の分配などはないものとする。
- Kさんには23歳未満の扶養親族はいないものとする。

A　40,000円

B　80,000円

C　120,000円

D　340,000円

解答欄（　　）

第19問　risk-019　保険・保険法（損害保険の免責）・難易度 ★★☆

損害保険契約の保険者の免責に関する、保険法の規定についての記述として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 約款で別段の定めをしていないものとする。

A　保険者は、保険契約者または被保険者の軽過失によって生じた損害も、てん補する責任を負わない。

B　保険者は、戦争その他の変乱によって生じた損害についても、てん補する責任を負う。

C　火災保険の保険者は、被保険者の重大な過失によって生じた損害であっても、てん補する責任を負う。

D　責任保険契約では、保険者が責任を負わないのは被保険者の故意によって生じた損害であり、重大な過失によって生じた損害は免責とならない。

解答欄（　　）

第20問　risk-020　保険・保険法（死亡保険の免責）・難易度 ★★☆

死亡保険契約の保険者が保険給付を行う責任を負わない場合（免責）に関する、保険法の規定についての記述として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 約款で別段の定めをしていないものとする。

(A) 被保険者が自殺をした場合でも、保険法上、保険者は必ず保険給付を行う。

(B) 保険契約者が被保険者を故意に死亡させた場合、保険者は保険給付を行う責任を負わない。

(C) 保険金受取人の1人が被保険者を故意に死亡させた場合、保険者は、他の保険金受取人に対しても保険給付を行う責任を負わない。

(D) 戦争その他の変乱によって被保険者が死亡した場合も、保険者は保険給付を行う責任を負う。

解答欄（　　）

第21問　risk-021　保険・自賠責保険（被害者請求）・難易度 ★☆☆

自動車損害賠償保障法（自賠法）に基づく、被害者から保険会社への直接請求（被害者請求）に関する記述として、最も適切なものはどれか。

(A) 自賠法第3条の規定による保有者の損害賠償の責任が発生したときは、被害者は、保険会社に対し、保険金額の限度において、損害賠償額の支払を直接請求することができる。

(B) 被害者は、加害者（保有者）が損害を賠償した後でなければ、保険会社に請求することができない。

(C) 被害者が保険会社に直接請求できるのは、保険金額を超える損害の部分に限られる。

(D) 被害者請求は、自賠責保険ではなく任意の自動車保険にのみ認められる制度である。

解答欄（　　）

第22問　risk-022　保険・損害保険の一部保険（比例てん補）・難易度 ★★☆

保険価額4,000万円の建物に、保険金額2,000万円の火災保険を付けている。火災により1,000万円の損害が生じた。保険法の規定により保険者が行うべき保険給付の額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 約定保険価額の定めはなく、約款に保険法と異なる定めはないものとする。

A　1,000万円

B　2,000万円

C　500万円

D　250万円

解答欄（　　）

第23問　risk-023　保険・保険法（超過保険）・難易度 ★★☆

損害保険契約の超過保険に関する、保険法の規定についての記述として、最も適切なものはどれか。

A　超過保険の契約は、超過しているかどうかにかかわらず、契約全体が無効となる。

B　契約締結時に保険金額が保険価額を超えていたことについて、保険契約者及び被保険者が善意でかつ重大な過失がなかったときは、保険契約者は、超過部分について契約を取り消すことができる。

C　超過保険の場合、保険者は保険価額を超える保険金額の全額を支払わなければならない。

D　約定保険価額があるときでも、保険契約者は常に超過部分を取り消すことができる。

解答欄（　　）

第24問　risk-024　保険・保険法（重複保険）・難易度 ★★☆

同じ損害をてん補する損害保険契約が複数ある場合（重複保険）に関する、保険法の規定についての記述として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 約款に保険法と異なる定めはないものとする。

A　重複保険の場合、各保険者は、保険金額の割合に応じた額しか保険給付を行う義務を負わない。

B　重複保険の場合、被保険者は、すべての保険者から損害額の全額をそれぞれ受け取ることができる。

C　重複保険の場合、後に締結された損害保険契約は無効となる。

D　他の損害保険契約が同じ損害をてん補することとなっている場合でも、保険者は、てん補損害額の全額について保険給付を行う義務を負う。

解答欄（　　）

第25問　risk-025　保険・保険法（重大事由による解除）・難易度 ★★☆

生命保険契約の重大事由による解除に関する、保険法の規定についての記述として、最も適切なものはどれか。

A　保険者は、保険契約者の保険料の支払が1日でも遅れれば、重大事由による解除をすることができる。

B　重大事由による解除は、保険契約者からしかすることができない。

C　保険金受取人が、生命保険契約に基づく保険給付の請求について詐欺を行い、または行おうとしたときは、保険者は生命保険契約を解除することができる。

D　保険法には、重大事由による解除の規定はない。

解答欄（　　）

第26問　risk-026　保険・個人年金保険の年金と雑所得・難易度 ★★☆

Mさんは、自分が契約者（保険料負担者）・被保険者・年金受取人である個人年金保険（確定年金・年金支払総額1,200万円）から、2026年中に年金120万円を受け取った。払込保険料の総額は900万円である。Mさんの2026年分のこの年金に係る雑所得の金額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 剰余金・割戻金はないものとする。
- 公的年金等には該当しないものとする。

A　30万円

B　35万円

C　120万円

D　0円

解答欄（　　）

第27問　risk-027　保険・所得補償保険金と税金・難易度 ★★☆

会社員のNさんは、病気で働けなくなり、自分が契約者・被保険者・受取人の所得補償保険から保険金を受け取った。この保険金の所得税の取扱いとして、最も適切なものはどれか。

A　給与所得として課税される。

B　一時所得として課税される。

C　雑所得として課税される。

D　非課税である。

解答欄（　　）

第28問　risk-028　保険・生命保険料控除（旧契約）・難易度 ★★☆

会社員のPさんは、2026年中に、2011年12月31日以前に締結した生命保険契約（旧契約）の一般の生命保険料を年間8万円支払った。ほかに生命保険料・個人年金保険料の支払はない。Pさんの2026年分の所得税の生命保険料控除の額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 剰余金の分配などはないものとする。

A　40,000円

B　45,000円

C　50,000円

D　80,000円

解答欄（　　）

第29問　risk-029　保険・保険法（保険給付の履行期）・難易度 ★★☆

生命保険契約の保険給付を行う期限に関する、保険法の規定についての記述として、最も適切なものはどれか。

A　保険者は、保険給付の請求を受けた日に、直ちに保険給付を行わなければならない。

B　約款で保険給付を行う期限を定めた場合は、その期限が確認に必要な相当の期間を超える日であっても、その期限が優先される。

C　保険給付を行う期限を定めなかったときは、保険者は、請求があった後、保険事故の確認をするために必要な期間を経過するまでは、遅滞の責任を負わない。

D　保険者は、保険給付の遅れについて、どのような場合も遅滞の責任を負わない。

解答欄（　　）

第30問　risk-030　保険・死亡保険金の非課税（相続人以外の受取人）・難易度 ★★☆

被相続人Qさん（契約者・保険料負担者・被保険者）の死亡により、Qさんの孫R（相続人ではない）が、死亡保険金1,000万円を受け取った。Qさんの相続人は、子2人である。Rが受け取った死亡保険金のうち、相続税の課税価格に算入される金額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- Rは代襲相続人ではなく、Qさんの養子でもないものとする。

(A) 0円

(B) 500万円

(C) 相続税ではなく所得税（一時所得）の対象となる

(D) 1,000万円

解答欄（　　）

第31問　risk-031　保険・保険法（保険契約者による解除）・難易度 ★☆☆

保険法における、生命保険契約の保険契約者による解除に関する記述として、最も適切なものはどれか。

(A) 保険契約者は、いつでも生命保険契約を解除することができる。

(B) 保険契約者が生命保険契約を解除できるのは、契約の締結から1年を経過した後に限られる。

(C) 保険契約者が生命保険契約を解除するには、保険者の同意が必要である。

(D) 生命保険契約を解除できるのは保険者だけで、保険契約者は解除できない。

解答欄（　　）

第32問　risk-032　保険・保険法（危険増加による解除）・難易度 ★★☆

保険法における、損害保険契約の締結後に危険増加が生じた場合の保険者による解除に関する記述として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 危険増加後の危険に対応した保険料に変更すれば、契約を継続できる場合とする。

(A) 危険増加が生じた場合、保険者は、いつでも契約を解除できる。

(B) 危険増加が生じても、保険者は契約を解除できない。

(C) 契約で通知義務が定められ、保険契約者又は被保険者が故意又は重大な過失により遅滞なく通知しなかったときは、保険者は契約を解除できる。

(D) 危険増加により契約を解除した場合、解除の前に発生した保険事故についても、保険者は常に保険給付を行わなければならない。

解答欄（　　）

第33問　risk-033　保険・地震保険の保険金額の限度・難易度 ★★☆

居住用建物に保険金額1億2,000万円の火災保険を契約し、地震保険を付帯する。この建物について付帯できる地震保険の保険金額の最高額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- この建物について、ほかに地震保険契約はないものとする。

(A) 6,000万円

(B) 3,600万円

(C) 1,000万円

(D) 5,000万円

解答欄（　　）

第34問　risk-034　保険・介護医療保険料控除（所得税）・難易度 ★★☆

会社員のNさんは、2026年中に介護医療保険契約等（2012年1月1日以後の契約）の保険料を年間6万円支払った。ほかに生命保険料・個人年金保険料の支払はない。Nさんの2026年分の所得税の介護医療保険料控除の額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 剰余金の分配などはないものとする。

A　40,000円

B　35,000円

C　30,000円

D　28,000円

解答欄（　　）

第35問　risk-035　保険・生命保険料控除（住民税）・難易度 ★★☆

Oさんは、2025年中に、新契約（2012年1月1日以後の契約）の一般の生命保険料を年間8万円支払った。ほかに生命保険料等の支払はない。2026年度の個人住民税の生命保険料控除の額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 剰余金の分配などはないものとする。

A　28,000円

B　40,000円

C　34,000円

D　35,000円

解答欄（　　）

第36問 risk-036 保険・解約返戻金と一時所得・難易度 ★★☆

Pさんは、自分が契約者（保険料負担者）である養老保険を解約し、解約返戻金480万円を受け取った。払込保険料の総額は380万円である。ほかに一時所得はない。この解約返戻金について、Pさんの総所得金額に算入される金額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 保険期間は5年を超えており、源泉分離課税の対象となる金融類似商品には該当しないものとする。

A 100万円

B 50万円

C 0円

D 25万円

解答欄（　　）

第37問 risk-037 保険・保険法（責任保険の被害者の先取特権）・難易度 ★★☆

保険法における責任保険契約に関する記述として、最も適切なものはどれか。

A 責任保険契約の被保険者に対して損害賠償請求権を有する者は、保険給付を請求する権利について先取特権を有しない。

B 被保険者は、損害賠償債務を弁済していなくても、いつでも保険者に保険給付の全額を請求できる。

C 責任保険契約の被保険者に対して保険事故に係る損害賠償請求権を有する者は、保険給付を請求する権利について先取特権を有する。

D 責任保険契約に基づき保険給付を請求する権利は、誰に対しても自由に譲り渡すことができる。

解答欄（　　）

第38問 risk-038 保険・保険業法（所属保険会社等の賠償責任）・難易度 ★★☆

保険業法における、保険募集人が保険募集について保険契約者に損害を加えた場合の責任に関する記述として、最も適切なものはどれか。

A 損害を賠償する責任を負うのは保険募集人だけで、所属保険会社等は責任を負わない。

B 所属保険会社等は、保険募集人が保険募集について保険契約者に加えた損害を賠償する責任を負う。

C 所属保険会社等は、保険募集人の委託や選任について相当の注意をし、損害の発生の防止に努めた場合でも、例外なく責任を負う。

D 所属保険会社等が責任を負うのは、保険募集人が所属保険会社等の役員である場合に限られる。

解答欄（　　）

第39問　risk-039　保険・保険法（第三者のためにする生命保険契約）・難易度 ★☆☆

保険法における、保険金受取人が生命保険契約の当事者以外の者である場合の取扱いとして、最も適切なものはどれか。

A　保険金受取人は、当然に当該生命保険契約の利益を享受する。

B　保険金受取人は、受益の意思表示をしなければ、保険金を請求する権利を取得しない。

C　保険金受取人は、保険契約者の同意がなければ、保険金を請求することができない。

D　保険金受取人が契約の当事者以外の者である生命保険契約は、無効である。

解答欄（　　）

第40問　risk-040　保険・死亡保険金と贈与税・難易度 ★★☆

契約者（保険料負担者）が妻、被保険者が夫、死亡保険金受取人が子である生命保険契約で、夫の死亡により子が死亡保険金を受け取った。この死亡保険金に課される税金として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 保険料は、全額を妻が負担しているものとする。

A　相続税

B　所得税（一時所得）

C　所得税・住民税（雑所得）

D　贈与税

解答欄（　　）

第41問　risk-041　保険・保険法（保険金受取人の死亡）・難易度 ★★☆

保険法における、生命保険契約の保険金受取人が保険事故（被保険者の死亡）の発生前に死亡し、その後、保険契約者が保険金受取人を変更しないまま被保険者が死亡した場合の取扱いとして、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 約款に保険法と異なる定めはないものとする。

A　保険契約者が保険金受取人となる。

B　被保険者の相続人の全員が保険金受取人となる。

C　死亡した保険金受取人の相続人の全員が保険金受取人となる。

D　保険金受取人がいないため、保険者は保険給付を行う責任を負わない。

解答欄（　　）

第42問　risk-042　保険・保険法（差押債権者等による解除と介入権）・難易度 ★★★

保険法における、差押債権者など保険契約の当事者以外の者が死亡保険契約（保険料積立金があるもの）を解除する場合に関する記述として、最も適切なものはどれか。

A　差押債権者等による解除は、保険者がその通知を受けた時から1か月を経過した日に効力を生ずる。

B　差押債権者等による解除は、保険者がその通知を受けた時に直ちに効力を生ずる。

C　差押債権者等による解除は、保険者がその通知を受けた時から3か月を経過した日に効力を生ずる。

D　差押債権者は、死亡保険契約を解除することはできない。

解答欄（　　）

第43問　risk-043　保険・保険法（請求権代位）・難易度 ★★★

Sさんの自動車が、第三者の過失による事故で損害（てん補損害額1,000万円）を受けた。Sさんは車両保険から保険給付800万円を受け取った。Sさんの加害者に対する損害賠償請求権は600万円（過失相殺後）である。保険法の規定により、保険者が代位取得する損害賠償請求権の額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 約款に保険法と異なる定めはないものとする。

A　800万円

B　600万円

C　400万円

D　0円

解答欄（　　）

第44問　risk-044　保険・自賠法（責任保険の契約の締結強制）・難易度 ★☆☆

自動車損害賠償保障法に関する記述として、最も適切なものはどれか。

A　自動車損害賠償責任保険（自賠責保険）への加入は任意である。

B　自動車は、自賠責保険又は自賠責共済の契約が締結されているものでなければ、運行の用に供してはならない。

C　任意の自動車保険（対人賠償保険）に加入していれば、自賠責保険の契約は必要ない。

D　自賠責保険の契約が必要なのは、事業用の自動車だけである。

解答欄（　　）

第45問　risk-045　保険・保険業法（意向把握義務）・難易度 ★★☆

保険業法に定める、保険募集人などの顧客の意向の把握等に関する記述として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 保険契約者等の保護に欠けるおそれがないものとして内閣府令で定める場合は考えないものとする。

(A) 保険募集人には、顧客の意向を把握する義務はない。

(B) 顧客の意向を把握する義務を負うのは保険会社だけで、保険募集人は負わない。

(C) 顧客の意向と異なる保険商品であっても、説明をせずに推奨して契約させることができる。

(D) 顧客の意向を把握し、これに沿った保険契約の締結等の提案、契約内容の説明、顧客の意向と契約内容が合致していることを顧客が確認する機会の提供を行わなければならない。

解答欄（　　）

第46問　risk-046　保険・地震保険料控除（住民税）・難易度 ★★☆

Tさんは、2025年中に自宅の地震保険料を年間4万円支払った。ほかに損害保険料の支払はない。2026年度の個人住民税の地震保険料控除の額として、最も適切なものはどれか。

前提条件
- 剰余金の分配などはないものとする。

(A) 40,000円

(B) 25,000円

(C) 20,000円

(D) 50,000円

解答欄（　　）

第47問　risk-047　保険・保険法（保険価額の減少）・難易度 ★★☆

保険法における、損害保険契約の締結後に保険価額が著しく減少した場合に関する記述として、最も適切なものはどれか。

(A) 保険契約者は、保険者に対し、将来に向かって、保険金額と保険料の減額を請求することができる。

(B) 保険価額が減少すると、保険者は保険金額を自動的に減額し、保険料を返還しなければならない。

(C) 保険契約者は、契約の始めにさかのぼって、保険料の全額の返還を請求できる。

(D) 保険価額が減少しても、保険契約者は保険金額や保険料の減額を請求できない。

解答欄（　　）

第48問　risk-048　保険・保険法の保険契約の分類（傷害疾病定額保険契約）・難易度 ★☆☆

保険法に定める保険契約の分類に関する記述として、最も適切なものはどれか。

(A) 人の傷害疾病によって生ずる損害をてん補する契約は、傷害疾病定額保険契約である。

(B) 傷害疾病定額保険契約は、生命保険契約に含まれる。

(C) 傷害疾病定額保険契約は、保険法の適用の対象外である。

(D) 傷害疾病定額保険契約は、保険者が人の傷害疾病に基づき一定の保険給付を行うことを約するものである。

解答欄（　　）

第49問　risk-049　保険・傷害保険の死亡保険金と相続税・難易度 ★★☆

Uさんは、自分が契約者（保険料負担者）・被保険者、妻が死亡保険金受取人である損害保険会社の傷害保険に加入していた。Uさんが交通事故で死亡し、妻が死亡保険金を受け取った。この死亡保険金に課される税金として、最も適切なものはどれか。

(A) 所得税（一時所得）

(B) 相続税

(C) 贈与税

(D) 非課税（いずれの税金も課されない）

解答欄（　　）

第50問　risk-050　保険・保険法（片面的強行規定）・難易度 ★★☆

保険法における、損害保険契約の告知義務に関する規定（第4条）に反する特約の効力として、最も適切なものはどれか。

(A) 第4条の規定に反する特約で、保険契約者又は被保険者に不利なものは、無効である。

(B) 第4条の規定に反する特約は、保険契約者に有利なものも含めて、すべて無効である。

(C) 第4条の規定に反する特約は、当事者が合意していれば、保険契約者に不利なものも有効である。

(D) 第4条の規定に反する特約は、保険者に不利なものだけが無効である。

解答欄（　　）